

分科会I | 【子ども・子育て】  
ワールドカフェ形式 グループワーク

子どもたちの未来をプロデュースする  
～今やるべきこと、今できることをみんなで考えよう～

■日時：11月14日(土) 10:00～11:30



表1 分科会のグループワークテーマ

<コーディネーター>

永田 雅子  
名古屋大学教授

<話題提供者>

塩之谷 真弓  
中部大学准教授

<グループリーダー>

矢吹 勇治  
株式会社デンソー  
総務部IA室

遠藤 幸子  
日本赤十字豊田看護大学助教  
小児看護学

塚本 岳  
リトルハウス主宰

特定非営利活動法人  
子育て・子育てNPOスコップ

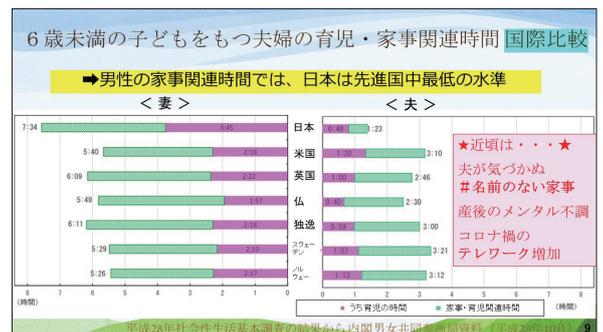
報告要旨

報告者：永田 雅子（コーディネーター）

分科会Iでは、「子ども・子育て」を土台に、“子どもたちの未来をプロデュースする—今やるべきこと、今できることをみんなで考えよう”を掲げて、参加型のワークショップを企画した。

当初、今の子どもたちは未来を描けているのか？、という素朴な疑問から始まったこの企画であったが、COVID-19の感染拡大に伴い子どもたちを取り巻く環境や生活が大きく変わり、今まで当たり前だったことが当たり前ではなくなる状況となった中での開催となった。妊娠・出産・子育ての中でサポートを得られにくくなり、子どもの遊びや活動が制限された今だからこそ、子どもの育ち・子育てを支えていくために何を大事にしていかなければならないかという本質を参加者とともに考える場になったのではないかと考えている。

この分科会では、まずコーディネーターの永田から、本分科会の企画趣旨について、子どもを取り巻く状況と子どもの権利条約と関連させるかたちで提示させていただいた後、保健師として長く活動をされてきた中部大学の塩之谷真弓氏から、家族や子育て、子どもの育ちを取り巻く状況について統計資料を提示するかたちで話題提供が行われた。そのあと、子どもの育ちを「生活や暮らし」「子どもの遊び」「コミュニティ」を切り口に9グループに分かれ、



World Cafe方式で議論を行った。セッションごとに内容の共有と方向性の提示を行い、コーディネーターの私から全体のまとめを行っていく形で進めていった。

日本女性会議の中で、“子ども”“子育て”という焦点を絞った分科会にどれだけ皆様に興味を持っていただけるのかということに不安を感じていたが、蓋をあけてみれば、様々な地域、様々な肩書や背景を持った方に集まっていたことができた。北は北海道帯広市、南は沖縄県宜野湾市から、20代から70代まで幅広い年齢層の方66名の参加となった。また、子育ての現場で活動されている方だけではなく、会社員、主婦・主夫、自治体職員など異なる背景を持った方、大学生も若い世代を代表して参加してくれており、様々な立場からの視点を共有できる機会となった。立場によって見える姿、現状は異なるものの、コロナの状況の中で、より問題が顕在化していく可能性がある状況を共有し、自分たちそれぞれが今何ができるのか、地域の資源をどう使うことができるのか、またそれ以上に、子どもや子どもを育てる家族にとって何を一番大切に支援していくことができるのかについて活発な議論が行われ、新たな問題提起につながっていった。

参加者の方からは、「皆さんとディスカッションをして話し合えたことが新鮮で嬉しかった」「いろいろな立場の方々、地域の方々とお話しができたのもとても貴重で大切な時間になった」「とても有意義な会だった」とおおむね好評な感想が寄せられた。今回オンラインとなり、グループディスカッションがうまく機能するのかなど、前日まで運営上の不安もあったが、サポートスタッフにしっかりとバックアップをいただき、あっという間の1時間半となった。コーディネーターとして、私が担当させてもらったが、会の企画・運営には、NPO法人子育て・育ちNPOスコープの代表杉浦登喜子氏はじめ、事務局スタッフに多大なる力添えをいただいた。そしてこの企画に賛同し、グループのファシリテーターやアシスタントを務めてくれた18名の仲間たちに改めて感謝を示したい。

今回の会議の“ミライク”という言葉であらわされているように、ここでできたつながりを未来につなぎ、次の世代へとしっかりとバトンを手渡せるように今後も活動をしていきたいと思っている。



●企画メンバー

杉浦登喜子 赤松 妙子 伊藤 裕佳 太田 泰雅 加古 葉子 加藤 愛子 黒木 知子 橋本由希子  
樋口 大河